

事業所名

ぼぼろ・まーら

支援プログラム

作成日

2025 年

3 月

1 日

法人（事業所）理念	1. 早寝・早起き・朝の散歩の生活実践 3. 真のノーマライゼーションの追求		2. 這う運動によりからだの全体発達を促す 4. なによりも日中を楽しく充実して過ごす。								
支援方針	1日の生活リズムを大切に、「眠ること」「食えること」「遊びきること」ができるようにしていきます。 子どもたちの誰もが生き生きと生活でき、全体発達を保証できる場を提供します。										
営業時間	学校日 学校休業日	10 8	時 時	00 30	分から 分まで	18 15	時 時	00 30	分まで	送迎実施の有無	あり
支 援 内 容											
本人支援	健康・生活	生体リズムを整えた生活が送れるように家庭と連携していきます。その上で、日中気持ちよく身体を動かし楽しんで過ごせるように支援していきます。 発達に応じて、食事、排泄、衣服の着脱（衣服の調節含む）等、身の周りのことが一人でできるよう促していきます。 思春期の成長の変化に向き合い、個々に対応できるよう促していきます。									
	運動・感覚	毎日の「這う運動」を継続し筋力の維持向上をはかります。マットやバランスボール等の活動でバランス感覚をやしなっていきます。 一定の速さで歩く散歩で体力をつけていきます。鬼ごっこやドッチビー等の集団活動を楽しんでいきます。 手先を使う活動（色玉、ボタン、新聞紙等）で手先の器用さを育てていきます。									
	認知・行動	生活の流れの中で、自分のすべきこと（靴を脱いで下駄箱にしまう、着替えた服を棚に入れる等）ができるようにしていきます。 生活や集団活動の中で色や形、数等認識していけるように働きかけていきます。 集団活動（椅子取りゲームやフルーツバスケット等）では、ルールが理解していけるように働きかけていきます。									
	言語 コミュニケーション	首の立ち直り、腕の力をつけ、言葉の発達につなげます。 本読み、みたて遊び、ちょうだい遊び等を笑顔で楽しみながら、職員は「ゆっくり」「はっきり」と話かけていきます。 友だちとうまくコミュニケーションが取れない時は、職員が代弁して気持ちを聞き出し、言葉を表現できるように工夫・支援をしていきます。									
	人間関係 社会性	友だちや職員と向かい合い、声を上げ笑いあえる関係を構築していきます。ちょうだい遊びで人との関わりを深めていきます。 職員や友だちとの関わりの中で、自分の気持ちの切り替えをする力や思いやりが持てるように促していきます。 個々の発達に応じ、状況にあった行動や言葉遣いができるようにしていきます。									
家族支援	家庭の様子、事業所での様子を共有し、成長・発達に必要な支援を家庭と連携し行っていきます。 家庭で困ったことがあれば相談に乗り解決していきます。				移行支援	学校・関係機関等と連携して、本人が過ごしやすい環境に移行していけるように支援していきます。					
地域支援・地域連携	地域の公共施設を活用し、子どもの成長・発達に生かしていきます。 関係機関と連携し、地域で暮らしやすくなるように取り組んでいきます。				職員の質の向上	法人研修を実施し、支援の質の向上に努めています。 また、外部研修にも参加しています。 資格取得希望者には費用の一部負担も行っていきます。					
主な行事等	納涼祭、ハロウィン、クリスマス会、節分、山登り、誕生会、製作活動等										